

医療機関の皆さまへ

横浜市保健所長

ジカ熱に関する情報提供及び患者への対応について（依頼）

日ごろから、横浜市の感染症対策に御協力いただき厚くお礼申し上げます。

今般、ブラジル等の中南米地域において蚊が媒介する **ジカ熱 (Zika)** が流行しており、**小頭症**や**ギラン・バレー症候群**の発生に関連している可能性も示唆されたため、WHO や米国 CDC の情報に基づき、厚生労働省からも注意喚起がなされました。

つきましては、流行地域への渡航歴があり蚊媒介感染症への感染が疑われる症例については、**デング熱**や**黄熱**等と共に**ジカ熱**についてもご留意ください。さらに、**ブラジル等への渡航歴がある妊娠中の女性**や**神経症状を呈している患者の診療に際しては、ジカ熱のリスクについてもご配慮をお願いいたします。**

1 ジカ熱について

- (1) 病原体：ジカウイルス
- (2) 感染経路：ネッタイシマカ、ヒトスジシマカ等の蚊による吸血
- (3) 臨床症状：軽度の発熱 (<38.5℃)、頭痛、関節痛、筋肉痛、斑丘疹、疲労感、倦怠感 など
(米国 CDC は約 80%が不顕性感染であるとしています)
- (4) 潜伏期間：3 日～12 日
- (5) 流行地域：ブラジル等の中南米地域、カリブ海諸国

2 小頭症、ギラン・バレー症候群及びその他の神経症状との関連性

ブラジルでは 2015 年から 2016 年までの小頭症患者の報告が 3500 例以上と、前年より異常に増加しています。増加の原因について、胎児が小頭症と確認された妊婦の羊水や、出産後まもなく死亡した小頭症の新生児の血液および組織からジカウイルス遺伝子が検出されたことから、ジカウイルス感染との関連が報告されました。これを受け、米国 CDC は妊娠中の女性は流行地への渡航を控えるよう警告しており、厚生労働省も注意喚起をしています。

また、ジカ熱の流行時にギラン・バレー症候群の症例数の増加が報告されており、WHO からギラン・バレー症候群を含む神経症状の合併について注意喚起がなされています。

3 流行地からの帰国者への対応

医療機関において、上記の情報を参考に、渡航歴や臨床症状等からジカ熱の可能性が考えられる患者を診察した際には、デング熱等の蚊媒介感染症やその他の輸入感染症との鑑別が必要であるため、横浜市立市民病院感染症内科への紹介をご検討ください。

【連絡先】横浜市立市民病院電話：331-1961 (代表)

- ◆ 検査や診断については感染症内科外来の診療時間内の対応になります。
受付は月～金曜日の午前 8:00～11:00 です（午後もご相談に応じます）。
重症例等の緊急の場合は、上記連絡先（24 時間対応）で救急外来にご相談ください。

【参考資料】

厚生労働省ホームページ「ジカ熱について」

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html>

(自治体・医療機関向けの通知や国立感染症研究所「ジカウイルス感染症（ジカ熱）のリスクアセスメント」が掲載されています)

【担当】

横浜市保健所 健康安全課 健康危機管理担当

電話：671-2463 (平日 8:30～17:15)

664-7293 (上記時間外：緊急通報ダイヤル)

FAX：641-6074

E-mail：kf-kenkoukiki@city.yokohama.jp